

令和2年度各部局の重点課題の取組結果

部(局)	教育部
部(局)長	福島 潔
教育監	岡本 泰典(学校教育担当)

【基本方針】

近年、義務教育を取り巻く環境は、急速に変化しています。令和2年4月には小学校、令和3年4月には中学校で新しい学習指導要領が本格実施されます。今回の改定では、「情報活用能力」を「言語能力」と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、これからの社会を生きていく世代にとって「情報活用能力」を身につけることは重要であることが明確にされました。

学校教育におきましては、ICTを活用した授業を進められるよう、必要な機器の整備を行うとともに、教員の指導力を高めてまいります。その上で、今まで大切にされていた学校の教育活動にICTの活用を組み合わせ子どもたちの「生きる力」を育成してまいります。

教育環境の整備につきましては、施設の老朽化や近年の猛暑、大型化する台風の襲来などへの対応を含め、計画的に進めることが必要です。災害発生時における市民の指定避難所としての役割を持つ体育館への空調設備の設置をはじめ、ICT機器を通じ、災害等により児童・生徒が登校できない状況を想定し、学校と自宅とを新しい方法で繋ぐシステムの構築など、従来の発想を転換した事業を検討、実施してまいりたいと考えています。

また、生涯教育においては、市民の生涯学習の機会を促進・充実させるとともに、青少年の健全育成活動に努めてまいります。

また、スポーツによる健康増進を図るため、身近な地域で気軽にスポーツを楽しめる機会を充実させるよう取り組みを進めてまいります。

【達成度について】

- A: 達成(設定した目標を達成することができた。100%)
- B: 概ね達成(概ね目標どおり達成することができた。70%以上100%未満)
- C: 一部達成(目標の一部を達成できた。50%以上70%未満)
- D: 未達成(目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。50%未満)
- E: 未実施(事業の取りやめなどにより評価不能又は困難。0%)

【重点課題】

	重点課題	令和2年度 達成状況
1	知・徳・体の調和のとれた子どもを育みます。	B
2	情報活用能力を育みます。	B
3	教育機会の均等と確保	A
4	安全・安心な教育環境の整備	A
5	誰もが学びたいときに学べる多様な学習機会と気軽に楽しめる生涯スポーツを提供します。	

※ 重点課題5については、コロナ禍の影響により、事業の進捗に影響が生じ、達成状況の評価はしていません。

部(局)名	教育部
-------	-----

重点課題 1	知・徳・体の調和のとれた子どもを育みます。
--------	-----------------------

全体の達成度
B
概ね達成

<p>目指すべき方向 (中期的な目標)</p>	<p>教育委員会、学校、家庭、地域が連携・協働して、以下に取り組めます。</p> <p>①「確かな学力」：「かしわらっ子はぐくみプラン（第2期 柏原市学力向上3カ年計画）」に基づき、新学習指導要領で求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」の育成を目指します。</p> <p>②「豊かな心」：教科化された道徳を軸に、人権教育、キャリア教育の充実をとおして、いじめや不登校、問題行動の減少を目指すとともに、夢や志をはぐくむ教育活動の充実を目指します。</p> <p>③「健やかな体」：保健体育や食育の充実により、将来にわたり体や健康に留意し、自己管理できる力の育成を目指します。</p>
-----------------------------	---

活動目標
<p>小学校においては、児童の学力と個性や心の在り様も調査する「かしわらっ子はぐくみテスト」を、中学校においては、学力向上推進講師による放課後学習等を引き続き実施します。</p> <p>更に本年度は学校司書を9名に拡充配置し、読解力の育成と読書環境の充実を図ります。</p>
<p>教職員が確かな人権感覚を持って幼児・児童・生徒たちに、正しい理解と認識を伝えることができるよう、人権問題についての研修等を実施し、真に人権が尊重された社会を担う人間の育成に努めます。</p> <p>また各学校において、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を蓄積していくために「キャリアパスポート」の作成を進めます。</p>
<p>保健体育の授業やクラブ活動、部活動において、繰り返し練習することをとおして、子どもたちが成長を実感し、達成感や充実感が得られるような指導に努めます。</p> <p>また、授業のみならず、行事や休み時間等を使って楽しく体を動かす遊びを取り入れることにより、運動する機会を増やします。</p>



具体的な取組実績
<p>「かしわらっ子はぐくみテスト」については、本年度は小学校3年生から6年生までを対象に12月に実施しました。特に算数が良好な結果であり、ほぼ全学年で全国の標準スコアを超えました。</p> <p>学力向上推進講師による放課後学習は各校での勉強会を1校につき15回程度実施しました。また、英検3級対策講座を10回実施しました。</p> <p>学校司書については、9月より7名を追加して9名体制になり、全小中学校にて学校司書が活用できるようになりました。</p>
<p>人権に関する研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年実施していた夏季フィールドワークは行えませんでした。が、秋季人権研修には、性的マイノリティの理解と対応についてをテーマに、ワークショップを交えた充実した研修が実施できました。</p> <p>キャリアパスポートについては、作成の意図や活用について校長会及び教頭会を通じて丁寧に説明・周知し、本年度は各学校において作成して、次年度へ引き継ぐことができました。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症による臨時休業により、自宅で過ごすことが多かった子どもたちに、体育の授業をとおして、運動の楽しさを実感させることができるよう、体育の指導経験が豊富な指導課の職員が市内3つの学校の研究授業に出向き指導助言しました。</p> <p>また、各中学校の部活動指導の充実と教員へのサポートを目的とした部活動補助支援員10名を7つの学校に配置しました。</p>



達成目標	達成状況	達成度
<p>「かしわらっ子はぐくみテスト」の国語、算数について、昨年以上の平均正答率を達成します。</p> <p>「中学校チャレンジテスト」について、昨年以上の平均正答率を達成します。</p>	<p>「かしわらっ子はぐくみテスト」の平均正答率については、同一児童集団で全国と比較しますと、国語については実施4学年中2学年が、算数については3学年が、昨年度と同値もしくは上回っていました。</p> <p>中学校チャレンジテストの平均正答率については、1年生は実施3教科全てが大阪府を上回り、昨年度よりも良い結果でしたが、2年生では実施5教科中で大阪府を上回ったのは1教科で、同一生徒集団で昨年度と比較しても少し下降傾向でした。</p>	<p>B</p> <p>概ね達成</p>
<p>「かしわらっ子はぐくみテスト」の特定の質問について、昨年以上の肯定的回答を達成します。</p>	<p>「朝食を毎日食べていますか」という質問への肯定的回答は、同一児童集団で比較しますと、実施4学年で全て昨年度を下回り、全国と比べても5、6年生はやや低い傾向でした。</p> <p>「一日の勉強時間を決めていますか」という質問については、3、5年生は昨年度を上回り、5年生については全国を上回りました。</p>	<p>B</p> <p>概ね達成</p>
<p>(活動目標①～③全てについて) 各学校園長の成果報告や、各学校園の子ども、保護者、教員対象の学校評価、市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めます。</p>	<p>市民意識調査の「教育指導」の満足度について、昨年度より0.12ポイント高めることができました。</p>	<p>B</p> <p>概ね達成</p>

総合評価・総括
<p>確かな学力については、第2期柏原市学力向上3カ年計画を踏まえ、「繋がりのある学び」「ビジョンのある研修」「広がりのある連携」の3つのテーマに基づいて取組みを進めてきました。その結果、正答率の面で小学校では算数で伸びが見られ、中学校では1年生が国語、数学、英語において近年で最も良い成果を残しました。ただし、焦点化して取り組んできた「書く力」については、本年度は課題が残る結果でした。</p> <p>豊かな心については、教科化された道徳に関する実践が各学校において定着してきており、研究授業を道徳で行う教員が増える等、意識の高まりが感じられます。人権教育の面では、新型コロナウイルス感染症に関わる差別事象が起きないように、各学校では様々な教材を用いて、相手の立場に立って考えを深めることができるよう取り組んできました。</p> <p>健やかな体については、新型コロナウイルス感染症への感染防止の観点から、活動が制限されることも多かったのですが、体育大会や球技大会のような体育行事については、複数回に分けることや種目を変更する等の工夫を講じるにより可能な限り実施してきました。</p> <p>本年度の学校園教育は新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度末から数えて3カ月という長期間の臨時休業を経てのスタートとなり、各学校園ではそれまでの遅れを取り戻すために行事の精選や実施方法の変更、夏季休業の短縮等の対策を講じながら教育課程に沿った教育を実施してきました。年度当初に掲げた活動目標や達成目標どおりの成果を上げられなかった部分もありますが、総じて見ますと、このような非常事態の中だからこそ、これまでの取組みを見直し、より実情に応じた教育の推進に向けての一步が進められた1年であったと捉えています。</p>

部(局)名	教育部
-------	-----

重点課題 2	情報活用能力を育みます。
--------	--------------

全体の達成度
B
概ね達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	<p>①ICT機器の導入を図ります。</p> <p>②本年度以降、小学校から順次実施することとなる新学習指導要領に基づき、学習の基盤となる資質・能力と位置付けられた情報活用能力の育成に向けて、新たに整備される機器や情報通信ネットワークを活用した学習活動の充実を図ります。</p> <p>③教職員による機器の有効活用を図り、ICT支援員のサポートを受けながら研修や実践交流をとおして指導力の向上に努めます。</p>
---------------------	--

活動目標
柏原市立小学校及び中学校へのICT機器の導入を進めます。
ICTの特性や機能に精通したICT支援員とICT補助支援員を、教育委員会が指定する先行実施校に試験的に配置し、専門性を活かした取組やその効果を配置校だけでなく市全域に発信していきます。
ICT活用推進委員会において、ICTを活用した授業づくりの在り方や研修計画について検討し、ICT教育推進リーダー会議において、各校のリーダーの実践交流等とおして、優れた実践を市全域で共有します。

具体的な取組実績
柏原市立の全小学校及び中学校にICT機器の導入が完了いたしました。
7月と12月にそれぞれ1名ずつのICT支援員を先行実施校に配置し、専門性を活かして教員の授業への支援をはじめ、順次整備した機器の活用についての助言と支援を行いました。ICT補助支援員についても先行実施校に2名配置し、ICT支援員の業務の補佐として学校を支援しました。
新型コロナウイルス感染症の影響で予定どおりには進みませんでした。ICT活用推進委員会を1回、ICT教育推進リーダー会議オンラインにて2回実施し、前倒して整備された機器の有効的な活用についての情報共有を進めました。

達成目標
国の方針に基づき児童・生徒、一人一台の端末を整備します。
「学校における教育の情報化の実態に関する調査」において、特定の項目について目標値を達成します。
(活動目標①～③全てについて)各学校園長の成果報告や、各学校園の子ども、保護者、教員対象の学校評価、市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めます。

達成状況	達成度
児童・生徒一人一台の端末の導入を完了いたしました。	A 達成
児童生徒の意見交流に機器を有効に活用するという項目において、教員が整備された授業支援システムの扱い方を学び、これまでより活用が進んでいることがわかりました。	B 概ね達成
市民意識調査の「教育指導」の満足度について、昨年度より0.12ポイント高めることができました。	B 概ね達成

総合評価・総括
「GIGAスクール構想の実現」の前倒しにより、一人一台の端末をはじめ、周辺機器や高速通信ネットワークの整備が進んだことやICT支援員の配置は、新学習指導要領の示す情報活用能力を含むこれからの時代に必要な力の育成に向けての大きなステップアップになったと考えています。

部(局)名	教育部
-------	-----

重点課題 3	教育機会の均等と確保
--------	------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	子どもが教育を受ける環境を均等にするため、学校の適正規模・適正配置を推進します。
---------------------	--

活動目標
より良い教育環境と効果的な学校教育の実現を目指します。
教育環境の均等を推進し、安全・安心な教育環境を目指します。

具体的な取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ・統合一年目であることを考慮した人的配慮をしました。 ・統合後の様子をヒアリングや視察、会議により把握し、必要な改善を行いました。 ・事務職員・養護教諭の加配による業務改善を推進し、子どもに向き合う時間の確保に努めました。
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての校区で、通学区域審議会で出された懸案事項が解消されているかどうかを視察し、学校や地域の意見をもとに、都市デザイン部や警察と連携しながら、通学路整備を進めました。 ・市内循環バスの利用を柔軟にしたり、タクシーチケットを活用することで、登下校の不安を解消しました。

達成目標
統合後の国分小学校を中心に、安心・安全な教育環境を整備します。
統合の効果を検証し、適正規模・適正配置の基準を見直す準備を進めます。

達成状況	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・4月～5月 通学路の視察及び整備 ・6月～3月 学校再開後ヒアリング ・登下校の不安による欠席や不登校ゼロ 	A 達成
<p>コロナ禍の中、段階を追って新しい学校に慣れることができるよう、取組を推進しました。子ども・保護者・教職員それぞれの立場から問題点はあがっていません。</p>	A 達成

総合評価・総括
<p>「柏原市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき、国分東小学校と国分小学校を統合しました。統合1年目がコロナ禍でのスタートとなりましたが、徐々に新しい環境に適應することができるよう、子どもの様子を見守りながら教育活動を進めた結果、混乱もなく1年間を終えることができました。</p> <p>学校の取組みもあり、学校の適正規模・適正配置は一定の成果が得られたので、今後は従来の基準を見直ししながら、子どもが教育を受ける環境を均等にする環境を整えてまいりたいと考えております。</p>

部(局)名	教育部
-------	-----

重点課題 4	安全・安心な教育環境の整備
--------	---------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	子どもたちが安全で安心な環境で学び、生活できるよう教育環境の質的向上を図ります。
---------------------	--

活動目標
国分中学校グラウンドの整備工事を進めます。
学校体育館への空調設備設置を進めます。

具体的な取組実績
国分中学校グラウンド整備工事について、令和元年度に引き続き、第2期工事を実施しました。
柏原中学校・玉手中学校の体育館へ空調設備を設置するための設計業務実施しました。

達成目標
国分中学校グラウンドの整備工事を完了します。
中学校2校の体育館へ空調設備を設置するための設計業務を行います。

達成状況	達成度
令和3年2月末で国分中学校グラウンド整備工事を終了しました。	A 達成
令和3年3月に体育館空調設置設計業務委託を完了しました。	A 達成

総合評価・総括
<p>令和2年度における目標については達成し、子どもたちがよい環境で学び、また学校生活を送ることができるよう教育環境の向上を図ることができました。</p> <p>今後につきましても、学校環境の整備に向け計画を立て、取組みを進めてまいりたいと考えております。</p>

部(局)名	教育部
-------	-----

重点課題 5	誰もが学びたいときに学べる多様な学習機会と気軽に楽しめる生涯スポーツを提供します。
--------	---

全体の達成度

目指すべき方向 (中期的な目標)	<p>①市民の多様な学習環境を整えるため、生涯学習事業の充実に取り組みます。 また、子どもの成長は、家庭や学校生活と併せ、地域社会との関りが大きな影響を与えるため、社会教育団体等との連携を深め、更に青少年の健全育成に努めます。</p> <p>②スポーツによる健康増進を図るため、身近な地域で気軽にスポーツと親しめる機会の充実に努めます。</p>
---------------------	--

活動目標
公民館、図書館、歴史資料館の利便性の向上と教室、蔵書等の充実に努めるなど、子どもから高齢者まで気軽に利用できる生涯学習事業を一層努めてまいります。
新型コロナウイルスの終息次第、速やかな通学時の見守り活動の実施、放課後子ども教室（のびのびルーム）や青少年講座の開催など、少年の健全育成活動を再開できるよう努めるとともに、自然体験施設等の活用による生涯学習の推進に努めます。
体育館やサンヒルススポーツセンター、堅下北スポーツ広場などのスポーツ施設を運営し、市民が身近でスポーツに親しめる場所を提供します。
誰もが気軽に参加できる「スポーツフェスティバルin柏原」や「柏原シティキャンパスマラソン」等を開催するとともに、柏原の自然を活かしたスポーツ教室を開きます。



具体的な取組実績
<p>公民館（本館・分館）の利用案内パンフレットを公共施設に配架し、市民の皆様には貸館案内の周知を図り多くの方に利用して頂けるよう努めました。</p> <p>図書館は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて開館及びイベントを開催しました。また、国の緊急事態宣言発出によりやむなく休館した5月7日から20日については、配達件数が521件、配達冊数が1,829冊の予約本の無料宅配サービスを実施しました。</p>
<p>子どもの安全確保のために、745人の登録ボランティアによる通学時の見守り活動を実施しました。</p> <p>しかしながら、コロナ禍の影響により、子どもへの感染拡大を防止する観点から、放課後子ども教室（のびのびルーム）は、23回の実施に留め、青少年講座や自然体験学習施設での野外活動事業は、実施できませんでした。</p>
<p>コロナ禍で緊急事態宣言の発出により、2度の公共スポーツ施設の利用中止があり、どの施設も当初の目標を達成することができませんでした。</p>
<p>コロナ禍の影響により「スポーツフェスティバルin柏原」等のイベントは中止となり、実施することができませんでした。</p> <p>市主催のスポーツ大会及びスポーツ教室につきましては、実施時期をずらして実施しました。</p>



達成目標	達成状況	達成度
<p>公民館や図書館、歴史資料館の利用人数を増やします。</p>	<p>→</p> <p>コロナ禍の影響により、市民文化祭を中止したことや、公民館（本館・分館）の貸館利用制限や休館の措置を取ったことにより、利用者数は、18,959人（R3.2月末現在）にとどまりました。</p>	
<p>市民意識調査の「青少年健全育成」「生涯学習」の満足度を高めるとともに、子どもたちの学べる機会を増やすため、地元大学との連携を深め、青少年講座を拡充します。</p>	<p>→</p> <p>市民意識調査のうち「青少年健全育成」の満足度は3.36となりました。一方、「生涯学習」の満足度は3.24となりました。青少年講座につきましては、コロナ禍により全て実施できませんでした。</p>	
<p>市民意識調査の「スポーツ振興」の満足度を高めます。</p>	<p>→</p> <p>コロナ禍の影響により、イベント数やスポーツ大会及びスポーツ教室が減となり、各スポーツ施設及び各スポーツイベント・教室等の全てにおいて、利用者、参加者数が減少しました。</p>	

総合評価・総括
<p>コロナ禍の影響により、緊急事態宣言発出期間中と3密対策が講じれないイベントについては、安全対策の観点から実施することができませんでした。</p> <p>また、コロナ禍の影響により、子どもへの感染拡大防止を優先させましたことから、今年度予定していた青少年健全育成事業の多くは実施することができませんでした。</p>

※ コロナ禍の影響により、達成状況及び全体の達成度の評価はしていません。